

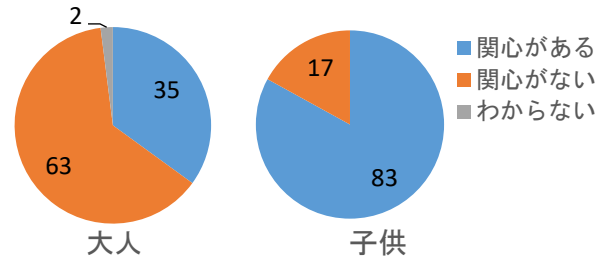
【2-21 質問紙法の尺度作成】

統計解析は、アンケート調査にも応用できます。サンプル数が少ないと、個々の意向が反映されやすくなりますが、サンプル数を増やして解析を行うことで、個々の影響を抑えた比較ができるようになります。

例. 話題のアニメーション映画 α について、世代ごとの関心を調べた。

0 大人と子供各100人について、映画 α に対する関心の有無を調べた。

	関心がある	関心がない	わからない
大人	35	63	2
子供	83	17	0



結果: 関心があると答えた人の割合は大人が35%、子供が83%であった (n=100)

考察: 子供の方が、日常的にこの映画のアニメーションを見ていることが影響したと考えられる。

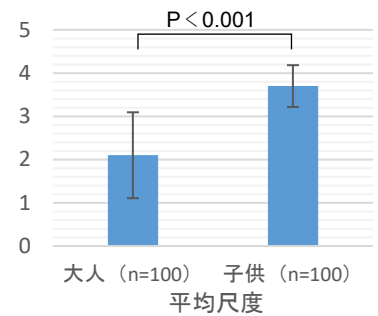
推論: 世代ごとに関心が異なると予想される。より詳しく分析したい。

1 話題の映画 α について、世代ごとの映画に対する関心を詳しく調べることにした。

大人と子供各100人について、映画に対する関心を4段階評価(4とてもある、3わりとある、2あまりない、1ほとんどない)で行い、平均値に有意差が得られるかを確かめることとした。

	4	3	2	1	平均	標準偏差	P 値
大人 (n=100)	10	20	40	30	2.1	0.994	0.0005
子供 (n=100)	70	30	0	0	3.7	0.483	P<0.001

回答数(人)



結果: t 検定を行ったところ、大人の平均値と子供の平均値に有意差がみられた。

考察: 子供は映画の対象世代であり「とてもある」と明確に答えやすく、大人は慎重に答えたと考えられる。

結論: 世代ごとに関心の程度が異なることが示された。鑑賞を持たない世代について分析を進めたい。

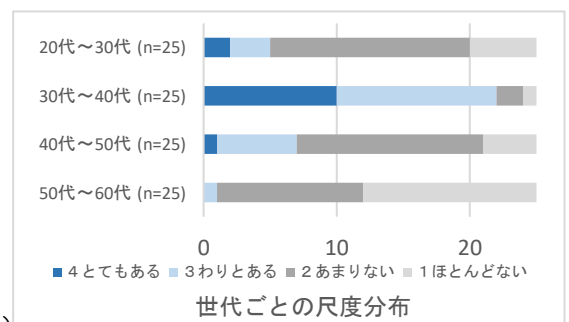
2 人気の映画について、映画 α を鑑賞することが世代に及ぼす影響を調べることにした。

大人世代(20代~30代、30代~40代、40代~50代、50代~60代)各25人に質問し、回答率を分析した。

分散分析、多重比較を行った。

	4	3	2	1	平均	標準偏差
20代~30代 (n=25)	2	3	15	5	2.08	0.812
30代~40代 (n=25)	10	12	2	1	3.24	0.779
40代~50代 (n=25)	1	6	14	4	2.16	0.746
50代~60代 (n=25)	0	1	11	13	1.52	0.586

回答数(人)



結果: 30代~40代は、他の3つの世代に対して有意差がみられた。

考察: 映画 α は子供が好みやすい映画であり、30代~40代は親世代が子供と一緒に鑑賞するため関心が増していると考えられる。

結論: 大人の世代においても、家族世代の関心は高いことが示唆された。映画 α は鑑賞する機会があれば、関心は広く高まるのではないか。

